

a 学校教育目標	地域に愛着と誇りを抱き、 夢の実現に向け自ら学びを求め、行動できる子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成
			【ビジョン】(自校の将来像) 地域・保護者の信頼を得、心から「西小で学んで良かった」「通わせて良かった」と誇りに思われる学校

評価計画						自己評価					改善策		学校関係者評価		
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善策	l 評価			m コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
働き方改革の推進	新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制を構築する。	「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の職務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために課すべき措置に関する指針」に基づいた取組の構築と推進	・教職員の時間管理能力の向上 ・学校経営会議や部会を通して業務の精選及び学校行事等の見直しや改善	・1カ月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えないようにする。 ・1年間の在校時間が総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が360時間を超えないようにする。	100%	62.0%	67.4%	67.4%	C	○各月45時間を超えない達成率 4月33.3% 5月59.3% 6月50.0% 7月85.7% 8月100.0% 9月74.0% 10月52% 11月66.7% 12月70.3% 1月84.0%	○学年部での業務内容の標準化の見直し ・役割分担の明確化 ・業務内容の見直し ・既存のデータの活用 ○積極的な生徒指導の推進 ・自己決定の場の設定 ・共感的人間関係の構築 ・自己肯定感の育成 ○個々の業務遂行能力と時間管理能力の育成 ・勤務時間の把握 ・短期スパンによる計画的な業務遂行 ○専科教員による集中的な支援 ・授業の準備 ・休学中、給食準備中の支援 ・テスト、宿題等の支援	3	1	・原則的に誇りと捉えるなら、先生方の負担として大きいのではないかと。 ・無理な見直し、推進、育成は人間関係を壊すことにならないだろうか。 ・国の推し進める教育改革に無理があると思う。人員補充すべき。 ・業務量が多い中、改善に取り組まれています。時間外に対する意識を変えることと、業務量だけではなく新しい業務に対する負担もあるかと思っています。	
確かな学力の育成	主体的に学ぶ合う児童を育成し、学力の向上を図る。 「かしこく」自ら学ぶ子ども	「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を通して、本校で育成を目指す資質・能力をもった、自ら学ぶ児童の育成を図る。	本校の研究主題に全員で取り組み、仮説の検証のために計画的な実践研究を行い、研究主題に迫る授業がどこまでできたかを互いに検証する。	『主体的学び』に関する児童アンケート肯定的評価	85%	87.6%	89.0%	103%	A	目標を達成することができた。教師側が単元で何を学ばせるか考えさせるのかを明らかにしながら、発問等の工夫をしたことで、興味をもって授業に取り組むことができたと考えられる。	必然性のある課題を設定し、問題解決型の授業を意図的に仕組み、単元を貫いていく。	4			・先生方の熱意と受け取る側の児童のやる気が標準学力調査においても顕現化できたこと、大変な苦労な点も多いとは思いますが、ぜひ継続してください。 ・小学校での「勉強は楽しかった」「やればできる」という自信が育つことを願います。
						『主体的な学び』に関する児童アンケート肯定的評価 ・論理的思考力に関するアンケート	85%以上	85.0%							
①全国学力・学習状況調査全国平均値正答率 ②業者単元テスト国語科「読むこと」全国平均値通過率 ③NRT全国平均値通過率	①2③80%以上	①国103.0%算98.0% ②74.6% ③73.0%	①国103.0%算98.0% ②75.0% ③73.0%	①100% ②93% ③91%	B	全国学力については、国語科は平均、算数科は1点全国より正答率が低かった。NRTは、どの学年も平均値より高く前年度の学力定着率は高い。ドリル学習や宿題の統一による効果もあると考えられる。しかし、国語科読むことの単元末テスト結果は80%を超えていない。これらの原因として、進級し、問題数や質問のされ方に難しさを感じたことなどが原因として挙げられる。	全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握をし、課題のある単元を焦点化し、学年が系統性を意識して取り組むようにする。また、全校共通の家庭学習に、プリント国語科(主に読む)・算数科(当日習ったもの)に毎日取り組む。アシストシートに年間2回は取り組ませる。NRTに対応した自作問題に取り組ませる。	3	1						
豊かな心の育成	様々な人や事象とのかかわりを通して、社会性や豊かな人間性を養う。 「なかよく」心豊かな子ども	合唱と読書活動等の充実と奉仕活動等を通して、豊かな感性・豊かな心の育成を図る。 特色ある地域の学習材や人材の活用と交流を通して、地域を想う心情を育てるとともに、社会貢献意識と規範意識の向上を図る。	学年(学級)ごとに児童の実態に応じた合唱に取り組む、仲間意識や表現力の育成を図る。また日常的な音声表現活動(詩や短歌・俳句等の音読・暗唱)を通して、自己表現に自信を持たせる。	『自らへの自信』に関する児童アンケート肯定的評価	低85% 中80% 高75%以上	低: 92.8% 中: 91.5% 高: 83.5%	低: 96% 中: 91.75% 高: 79%	低113% 中115% 高105%	A	どの学年も、目標を達成することができた。低学年、中学年は、アンケートの回数を重ねるほど数値が高まっており、自己肯定感が高まっている。例年より、規模は縮小しているが、学校行事や学年、学級での取組により、児童の学校生活への意欲が高まっていることが要因として考えられる。	学校での教育活動や行事が制限されている中でも、学年や学級で出来る活動を考え、その活動に対するめあてを立てることで達成感を味わわせる。また、学級では、特別活動を充実させ、児童が主体的に活動することで、児童同士がより深く関わって互いに肯定的評価ができ、それぞれが自信を高められるように仕組む。	4			・児童アンケートにも自己肯定感の向上がみられ、成果は向上していると感じます。 ・コロナ禍での行事は難しいかと思いますが、意図的な仕組み方が成果を上げていると思います。
健やかな体の育成	自らの体力と健康を向上させ、自己管理能力の育成を図る。 「たくましく」健やかな子ども	組織的・計画的な実施により児童の体力の向上を図る。 食教育や保健・安全教育の推進により、自己管理能力の育成を図る。	児童アンケートや体力テストの調査の結果分析をもとに、課題克服のための取組(校内研修、外部講師による児童への直接指導、小中連携等)を充実させ、教職員の意識向上と児童の体力向上を図る。	①体力テスト全国及び県平均値以上達成率 ②2学期に行った重点項目の自己目標達成率	①75%以上 ②60%以上	①25.0%	②68.9%	114%	A	1学期に行った体力テストでは、男子は立上り幅跳び、反復横跳び、女子は握力、反復横跳び以外は、全国平均値(平成30年度調査結果)を上回っており、目標を達成することができなかった。原因としては、コロナ禍で外で遊ぶ機会が減ったり、体育の活動が制限されたりしたことで体力が下がっていると考えられる。そこで、握力と長座体前屈を重点項目として取り組み、再計測した。自己目標達成率は、68.9%で目標を達成することができた。また、全体的に前回よりも記録が上がっていた。	・体力アップの指導を行い、全学年で内容を再度統一する。宿題として習慣にできるようにする。 ・体力アップは、宿題としてだけではなく、体育の授業の始めにも毎回取り組んでいくようにする。 ・「西小なわとび運動」を行って、跳躍力の向上を図りながら、運動する機会を増やしていく。 ・朝の会で簡単に、継続してできる体力アップの取組を行う。	4			・3割近くの児童が食べきれず残して外に出て遊ぶことにより、時間制約の中では厳しいのではと思う。 ・学習前の軽い運動は学習効果を高めます。学力の前提は、体力・健康ではないかと思います。 ・学力面とともに小中連携していくべき内容だと思います。体力増進に成果を上げていることは、現在の社会情勢から見て素晴らしいと思います。
			保健指導や委員会活動などを通して、児童に食物アレルギー対応などを含む食教育や保健・安全教育の改善・充実を図り、児童の自己管理能力の育成を図る。	『食育』『保健・安全』に関する児童アンケート肯定的評価	75%以上	80.5%	80.3%	107%	A	・体を動かすことが楽しい 92%→92% ・進んで外遊びや運動をしている 73%→71% ・家庭学習で体力アップをしている 87%→86% ・給食を給食時間に食べけている 70%→72% ・進んで外遊びをする児童の割合が少し減った。また、給食を食べきれない児童の割合が少し増えた。2学期から給食準備、給食指導のあり方を全校で統一し、給食時間を十分に確保できるように取り組んでいる成果が少しずつ出ていいると考えられる。	・生徒指導と健康づくりの面から、昼休憩は全員外遊びができるように徹底していく。教員もできるだけ児童といっしょに外遊びをする。 ・全学年で給食指導の方法を統一する。特に、給食準備の指導を行い、給食時間を十分に確保できるようにする。 ・食育の指導を行い、児童の食に対しての意識を変えていく。	3	1		